第 30 回オリンピック競技大会（2012／ロンドン）における帯同報告

日本選手団本部員・情報戦略スタッフとして

久木留 毅（文学部准教授）

はじめに

第 30 回オリンピック競技大会（2012／ロンドン）は、2012 年 7 月 27 日～ 8 月 12 日（17 日間）イギリスのロンドン市内他で 26 競技 302 種目において実施された。日本選手団は、選手 293 名（男子 137 名、女子 156 名）、役員 225 名、合計 518 名が大会に参加した。今回筆者は、日本選手団本部員（情報戦略スタッフ）として帯同した。

1. 日本オリンピック委員会（以下 JOC）における所属委員会等について

JOC において筆者は、以下の委員会等に所属している。

ゴールドプラン委員会（JOC の短中長期計画を策定する）、情報・医・科学専門部会（情報戦略部門長）、ロンドンオリンピック競技大会・ソチオリンピック競技大会対策プロジェクト等。ロンドンオリンピック競技大会においては、本部員・情報戦略スタッフとして参加した。

2. ロンドンオリンピック競技大会における情報戦略活動

情報戦略活動の役割を活動の視点から大別すると、主に「JOC 選手強化本部内の活動」と「日本選手団における活動」のふたつに分けられる。前者は、競技団体（以下 NF）が作成したオリンピック競技大会に向けての「強化戦略プラン」をもとに、JOC と NF が連携して行うべきことやその進捗状況を明らかにする中・長期的な情報戦略活動が主体である。後者は、予選を勝ち抜いた選手や各 NF 関係者らを中心に編成される日本選手団が実力を発揮できるように集団機能の向上を推進するための活動が中心である。

3. オリンピック競技大会における選手村の中での中心的な情報戦略活動

対諸外国活動しては、2014 年、2016 年のオリンピック競技大会に向けた情報の収集が重要な活動である。具体的には、村内の各国選手団本部等へのヒアリング調査を実施した。訪問した国は、アメリカ、カナダ、ブラジル、オランダ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、フランス、スイス、スウェーデンの合計 10 カ国であった。内容は、各国の選手団機能（村内における自国の配置、医療施設、サービス内用、トレーニング施設等）について、主要人物へのインタビューおよび各スタッフへの聞き取り調査と現地視察を実施した。

収集した情報は、加工を施し分析し、日本選手団団長および役員に後日報告を行った。

まとめ

エリートスポーツにおいて行われている情報戦略活動は、国際競技力向上を目的としている。今大会における情報戦略活動の特徴は、2011 年にスポーツ基本法が制定され「スポーツ立国を目指し国家戦略として取組む」ことが明確に位置づけられた直近のオリンピック競技大会であった。その中で、情報戦略スタッフとして参加し強豪国の情報を収集できたことは、次回以降の国際競技大会にむけて有益な活動となった。